

(単位: 億円)

コンシューマー食品 合計	FY17 予算	FY16 実績	差額	FY16 9M実績	FY16 1H実績	FY16 1Q実績	FY15 実績
売上高	8,423	8,194	228	6,139	3,916	1,969	8,609
日本食品	4,030	3,904	125	2,982	1,889	945	3,970
調味料・加工食品	1,934	1,917	16	1,467	928	461	1,982
冷凍食品(日本)	1,015	987	28	747	487	241	929
コーヒー類	1,079	999	80	767	473	243	1,058
海外食品	4,393	4,289	103	3,157	2,027	1,023	4,639
調味料・加工食品	2,814	2,653	161	1,954	1,255	627	2,803
冷凍食品(海外)	980	984	▲3	721	456	233	1,055
加工用うま味調味料・甘味料	597	652	▲54	480	315	162	780
事業利益*	857	825	31	690	393	204	790
日本食品	419	408	10	343	172	85	317
調味料・加工食品		356	▲約5	285	157	75	324
冷凍食品(日本)		84	約10	73	42	19	44
コーヒー類		84	約10	69	29	18	59
全社共通費	▲121	▲116	▲5	▲85	▲56	▲28	▲110
海外食品	438	417	20	347	221	119	473
調味料・加工食品			28				
冷凍食品(海外)		54	4	51	27	11	62
加工用うま味調味料・甘味料			▲6				
全社共通費	▲144	▲139	▲4	▲99	▲63	▲31	▲127

対前年 増減要因または主要施策	
【日本食品】 調味料・加工食品は主要商品の拡大と育成領域の成長加速等により増収を見込む。 冷凍食品はコア製品の拡大や次の収益の柱となる製品の育成・強化等により増収を見込む。 コーヒー類はスティックコーヒーを中心とした拡売および業務用事業の伸長等により増収を見込む。	
【海外食品】 調味料・加工食品は調味料を中心にトップラインを拡大、現地通貨ベースでの2桁成長により増収を見込む。 冷凍食品はアジアカテゴリーの拡売を進めるが、為替影響等もあり、減収を見込む。 加工用うま味調味料、甘味料ともに為替影響等により減収を見込む。 (参考)FY17予想:加工用うま味調味料 442、FY16実績:加工用うま味調味料 497	
【日本食品】 調味料・加工食品は引き続き安定成長を見込むも、前年度の一部持分法適用会社の持分法利益増加影響等により減益を見込む。 冷凍食品は売上増加と収益構造の継続強化等により増益を見込む。 コーヒー類は売上拡大等により増益を見込む。	
【海外食品】 調味料・加工食品は現地通貨ベースでの2桁成長と新規連結影響等より増益を見込む。 冷凍食品は各法人の事業構造強化により増益を見込む。 加工用うま味調味料・甘味料は、円高のマイナス影響等により減益を見込む。 (参考)▲6億円減益予想の内、加工用うま味調味料で▲1億円	

アミノサイエンス 合計	FY17 予算	FY16 実績	差額	FY16 9M実績	FY16 1H実績	FY16 1Q実績	FY15 実績
売上高	2,277	2,136	141	1,537	1,020	518	2,338
ライフサポート	1,279	1,240	38	920	599	305	1,424
動物栄養	836	784	52	577	375	192	949
化成品		438	▲約25	329	216	109	432
その他		18	約10	12	7	3	41
ヘルスケア	998	895	102	617	421	213	914
アミノ酸		712	約15	478	324	166	758
医薬用・食品用アミノ酸		約355		約255	約180	約90	約380
製薬カスタムサービス		約355		約220	約145	約75	約380
その他		182	約85	138	97	46	156
事業利益*	134	140	▲6	93	64	38	191
ライフサポート	58	58	▲0	39	21	11	120
動物栄養	15	6	8	▲5	▲7	▲4	55
化成品		98	▲約10	77	50	26	103
その他		▲9	▲約5	▲5	▲4	▲1	▲3
全社共通費	▲36	▲36	0	▲26	▲17	▲8	▲35
ヘルスケア	76	81	▲5	54	42	27	70
アミノ酸		105	▲約15	73	55	31	103
医薬用・食品用アミノ酸							
製薬カスタムサービス							
その他		6	約15	1	1	3	▲3
全社共通費	▲35	▲30	▲4	▲20	▲14	▲7	▲29

対前年 増減要因または主要施策	
【ライフサポート】 動物栄養はスペシャルティ製品の拡大等により増収を見込む。 化成品はケミカル、化粧品ともに増収も化粧品リートの計上セグメント変更(ヘルスケアその他に移管)により減収を見込む。	
【ヘルスケア】 医薬用・食品用アミノ酸は円高によるマイナス影響等により減収を見込む。 製薬カスタムサービスは欧州事業が牽引し増収を見込む。 その他はダイレクトマーケティング事業、スポーツニュートリション事業の伸長により増収を見込む。	
【ライフサポート】 動物栄養はスペシャルティ製品の拡大等により増益を見込む。 化成品は円高のマイナス影響等により減益を見込む。	
【ヘルスケア】 医薬用・食品用アミノ酸、製薬カスタムサービスともに減益を見込む。 その他はダイレクトマーケティング事業、スポーツニュートリション事業の伸長やコストダウン等により増益を見込む。	

その他	FY17 予算	FY16 実績	差額	FY16 9M実績	FY16 1H実績	FY16 1Q実績	FY15 実績
売上高	620	581	38	439	287	140	545
事業利益*	▲21	2	▲23	11	4	▲1	▲0
全社共通費	▲33	▲32	▲0	▲24	▲17	▲9	▲37

対前年 増減要因または主要施策	
主に医薬品の受託事業の減益により、全体として減益を見込む。	

全社調整	FY17 予想	FY16 実績	差額	FY16 9M実績	FY16 1H実績	FY16 1Q実績	FY15 実績
売上高	550	-	550	-	-	-	-
事業利益*	50	-	50	-	-	-	-

対前年 増減要因または主要施策	
為替分:+550(換算為替分+550:内訳:日本食品:+7、海外食品:+407、ライフサポート:+75、ヘルスケア:+49、その他:+9、貿易為替分▲0) 為替分:+37(換算為替分+64:内訳:日本食品:+2、海外食品:+53、ライフサポート:+2、ヘルスケア:+5、その他:+1、貿易為替分▲27)、 その他分:+13(医薬品製造受託の予算未織込み事項の反映)	

総合計	FY17 予想	FY16 実績	差額	FY16 9M実績	FY16 1H実績	FY16 1Q実績	FY15 実績
売上高	11,870	10,911	958	8,116	5,224	2,628	11,494
事業利益*	1,020	968	51	796	462	241	981

対前年 増減要因または主要施策	

表示上の注意: 非開示  
約\*\* 概算値

\* 当社が経営管理のために独自に定義した利益指標  
事業利益(連結ベース) = 売上高 - 売上原価 - 販売費・研究開発費及び一般管理費 + 持分法による損益

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。  
・本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。  
・本資料の金額は、切り捨てて表示しております。